

磐城時報

福島縣石城郡平町岩屋町十四
印刷所 加納印刷所
印刷 加納印刷所
電話 二二二二
代價 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元
廣告料 一行十四字 五日五拾錢
印刷 加納印刷所
電話 二二二二
代價 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元
廣告料 一行十四字 五日五拾錢

小名濱港修築費 本年度の使途決定

來年度は二十五萬圓を 豫算に計上するやう運動

石城郡小名濱町における内務省となり大成功を収め遅れて申込
小名濱港出張所では去る十八日みたる人々の残念が事一方な
の閣議で決定した當初の豫算より五萬圓減の本年度實行豫算
九萬五千圓の使途について豫算委員、聖武天皇、行基菩薩、菅原
道真等の遺跡や越後の彌彦神社の参拜もなす豫定である、出
新築費は八千圓事務所
▲金二萬圓(内三千圓事務所
▲七萬五千圓事業費内(一萬
圓測量費、二萬圓船舶、機械
購入、工場設置費、四萬圓防
砂堤築造費)
尙ほ小名濱町では來年度築港費
算三十五萬圓は減額せぬこと
竣工昭和十三年を十年位にす
ること等に向つて政府に猛運動
を續ける筈である。

原町通信

二千圓の寄附を集めて 第三校にピアノを寄附

平町東部地方第三小學校の通學
區域の各區長町會議員並第一、
第二、第三の各小學校發起で第
三小學校にピアノを寄附する事
となり二十一日から全町を三區
に分け寄附募集に着手したが、
募集豫定額は二千圓である。

中堅青年講習

郡聯合青年團主催中堅青年講習
會は例年の如く来る八月廿三日
預町一臺、内郷村一臺の検査を
から廿六日まで四日間平町警署
で行ふ。

佐渡探勝の 団体募集

仙臺運輸事務所主催にて
第一回は去る七月十九日出發し
たるが、募集開始二日に満員

不良飲食物 販賣者を取締る

腐敗したバナナを賣つて 二名先づ槍玉に上る

平警察署では傳染病流行期に入省では七月二十六、七の土曜日
つたので町内の飲食物販賣者に曝日、八月三日、十四、十七、
不良物を賣らぬやう注意を與へ二十四日の各日曜日に限り午前
ておいたが、果實の腐敗したバナナも九時と同時三分に平を發して
のを賣つてゐる者が非常に多い、四倉に行く臨時列車、同時に四
この方面を取締る事とし、倉發平臨時列車を出発する等であ
二十一日先づ腐敗したバナナを賣つた平町五丁目、
店頭に陳列して賣つた平町五丁目、
目録本キヤ(四七)並に平町大工
町十七大塚竹松(二六)の兩名に
對し科料を言渡したが、今後毎
日取締りを行ふ方針である。

四倉行臨時列車

四倉海水浴行きの便を圖り鐵道死した。
▲危険な水遊び
石城過般死したので平町麻生川
氏が八月一日から家扶に抱えら
るゝ事になつた。

平から神戸まで

田卷、長瀬、綿引三君の自轉車旅行 第五信 名古屋市に於て

今日は愈々箱根突破だ。
先ず小田原通過。元城下町丈
に幅が廣い。就中町役場の
建築が素直だ。其れ自身が優
れてゐるよりも秀麗な周囲に
融和して獨立する様は正に大
都市役所に恥ぢない。
湯本、塔の澤だ。眼界は總
て箱根だ。此れが當ての神秘
の凸凹する山脈を振りかへつ
た。此の地帯は用水の便よ
く、多分のオン分を持つ。
坂は愈々峻だ。此れが四五
里も續くと云ふ。汗が一時に
浸み出る。なによりも僕等を
喜ばしたのが水だ。箱根は
その心配はない。二三丁程行
けば何處にも清水がある。そ
れは僕等に熱帯とは別な世界
を提供する。

四倉町で 醫師組合

役員決定

石城郡四倉町醫師は今回聯合し
て四倉醫師齒科醫組合を組織し
て二十一日午後七時同町海氣館で
發會式を舉げ役員を右の如く決
定した。

麻生川氏が 安藤家の家扶

安藤子爵家の家扶加治鐵雄氏は
氏が八月一日から家扶に抱えら
るゝ事になつた。

吉田廣三郎 平署に自首

花合せ賭博開帳中平署に捕はれ
逃走中であつた平町搔搦小路吉
田廣三郎(五三)は二十一日午後
四時平署に自首した。

四倉管内点呼

四倉管内各町に於ける陸軍簡閱点呼は八月
七日七時平署に自首した。

盆唄應募

平町町青年團で主催となり懸
賞で募集中であつた磐城盆唄は
應募者六百二十八句で来る二十
五日審査し二十八日發表する筈
である。

若之湯、元箱根がさすがに
遠望される、胸ヶ嶽、双子の
連山がその半影を日光に晒し
てゐる、振りかへつて眼下は
風光明媚で名ある声の湖を
見る。此よりは下りの傾斜だ
折れて曲つて僕等はドライヴ
する。此れで道路は良かつた
ならば、箱根の傍はらざる嘆
箱根権現参詣。もう声の湖
の精霊が脚下に躍つてゐる。
貸ボート、五十錢也。僕等は
思ひ切つて大枚五十兩を投げ
出した。漕ぎ手はある自稱名
手三名、なにしろこの大きな
湖だ。どう動かさうと云つた
から心配はない。
ソラ漕げ、蒸氣にぶつけ
ちまい、歌へ、踊れ、すつか
り僕等は有頂天だが、此處に
恐ろしい事件がもち上るのだ
と云ふのは……
いきなり僕等の楫をつかん
だ奴がある。なんだ……僕
等の視線が一樣に水面に向け
られる。驚いたことに、水面
にボツカリ人間大の頭が浮
いてる。つばないか、そいつは

